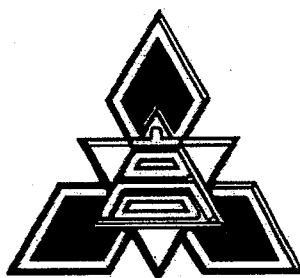


# 年間授業計画表

---

令和6年度 1年 普通科



SHINMINATO HIGH SCHOOL  
富山県立新湊高等学校

## 1年普通科 年間授業計画表目次

ページ	教科名	科目名	単位数	コース	必修・選択の別
1	国語	現代の国語	2	全	必修
2	国語	言語文化	3	全	必修
3	地理歴史	地理総合	2	全	必修
4	地理歴史	歴史総合	2	全	必修
5	数学	数学Ⅰ	3	全	必修
6	数学	数学Ⅱ	1	全	必修
7	数学	数学A	2	全	必修
8	理科	化学基礎	2	全	必修
9	保健体育	体育	3	全	必修
10	保健体育	保健	1	全	必修
11	芸術	音楽Ⅰ	2	全	選択
12	芸術	美術Ⅰ	2	全	選択
13	芸術	書道Ⅰ	2	全	選択
14	外国語	英語コミュニケーションⅠ	4	全	必修
15	外国語	論理・表現Ⅰ	2	全	必修
16	家庭	家庭基礎	2	全	必修

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	国語	科目	現代の国語
学習教材	教科書 「現代の国語」 大修館書店								
学習目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることができる。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わることができる。								
単元と内容									
1 学期	「白紙」 「伝える・伝え合う」 「水の東西」 「伝わるように話す」  「わかりやすく書く」  「発想を広げる」 「意見を書く」 「論理をとらえる」  「工夫して話す」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。</li> <li>・具体例の役割や対比の関係をとらえ、文章の要点を的確につかむ。</li> <li>・話し言葉の特徴をふまえて話したり、聞き手が理解しやすい説明のしかたを考え、過不足なく伝えたりする。</li> <li>・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるようにわかりやすく書く。</li> <li>・他者と意見を交流し、アイデアを出し合う。</li> <li>・構成や展開を意識し、根拠を明確にして、自分の意見を書く。</li> <li>・「動的平衡としての生物多様性」を読み、主張と根拠、理由づけの関係をとらえるとともに、文章の論理をとらえる。</li> <li>・声の強弱や話す速度、間の取り方を意識して話したり聞いたりする。</li> </ul>							
2 学期	「資料と文章の関係を読む」  「統計資料をもとに意見を書く」  「目的に沿った質問をする」 「状況に応じた通信文を書く」 「文章を比較して読む」  「説得力のある資料をつくる」  「資料を用いて発表する」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターネット時代の音楽産業」を読み、資料と文章の情報を相互に関係づけながら、情報を読み取る。</li> <li>・統計資料を正確に読み取り、読み取った情報を組み合わせたり、比較したりして、的確な主張を生み出す。</li> <li>・質問の目的を明確にし、知りたかったことへの理解を深める。</li> <li>・通信文の基本を知り、相手や場面に応じた通信文を書く。</li> <li>・「空気を読む」「『個人』から『分人』へ」を読み、複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。</li> <li>・提案を検討する際に必要な要素を押さえ、効果的な表現や資料提示のしかたを工夫する。</li> <li>・聞き手の心を動かす話し方を工夫し、資料に基づき効果的に発表する。</li> </ul>							
3 学期	「根拠を吟味して読む」  「討論をする」 「主体的に読む」 「結論を出すために話し合う」  「レポートを書く」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語についての新しい認識」を読み、文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。</li> <li>・討論の流れや各自の役割を理解し、考えが伝わるよう発言する。</li> <li>・文章から必要な情報を読み取り、読み取った情報を活用する。</li> <li>・結論を出すための話し合いの工夫について理解を深め、結論の出し方を工夫して話し合う。</li> <li>・適切な情報を集めて問いを立てるとともに、調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。</li> </ul>							
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を習得している。	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めることができる。	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	・授業内で自分がやるべきことを探し、粘り強く課題に取り組む。 ・授業から新たな疑問を見つけることができる。		○		○	○		
評価方法	①		②		③				
	㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検	㊦定期考査 ㊧授業で作成した作品 (レポート、意見文など)	㊦ワンペーパーポートフォリオ ㊧ループリックによる相互評価 ㊨各種課題提出状況 ㊩話し合い活動への参加状況						

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	3	教科	国語	科目	言語文化
学習教材	教科書 「高等学校 言語文化」数研出版								
学習目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わることができる。								
単元と内容									
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇治拾遺物語・竹取物語</li> <li>・羅生門</li> <li>・漁夫之利・狐借虎威</li> <li>・徒然草</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典読解のために必要な文語や訓読のきまり、漢文の特徴や書き下し文の決まりを理解する。</li> <li>・「読むこと」において、文章に書かれた人物像や心情を、表現に即して読み味わう。</li> <li>・文学作品に触れることで語感を磨き、語彙を豊かにする。</li> <li>・「読むこと」において、本文と典拠作品を比較して意見交換を行い、自分の考えを広げたり、深めたりする。</li> <li>・「読むこと」において、筆者の無常観を反映した理想的生活と、それにまつわる感情の変化を読み取る。</li> </ul>						
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・側転と三夏</li> <li>・万葉集・古今和歌集</li> <li>・新古今和歌集・短歌</li> <li>・伊勢物語</li> <li>・管鮑之交・先従隗始</li> <li>・枕草子</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、登場人物の性格の違いを描写から読み取る。また、主人公の心情の変化を整理する。</li> <li>・時代ごとの短歌の特徴や技法、構成について理解する。</li> <li>・「読むこと」において、それぞれの短歌が描く情景や心情、世界観を読み味わう。また、和歌の解釈を通して、物語中の登場人物の置かれた状況や心情を読み取る。</li> <li>・「読むこと」において、登場人物の人間関係を描写から読み取り、整理するとともに、文章中に登場する例話が暗示する内容について理解する。</li> <li>・「書くこと」において、参考作品の章段構成を基に、自分の知識や体験を題材とした随筆を書く。</li> </ul>						
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーカス・I was born</li> <li>・俳句</li> <li>・漢詩</li> <li>・奥の細道</li> <li>・論語</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代詩の形式や表現技法について理解する。</li> <li>・「読むこと」において、それぞれの作品に描かれた生き方や考え・心情を読み取り、感じたことや考えたことを文に書く。</li> <li>・漢詩のルールや形式、表現技法を学ぶ。</li> <li>・「読むこと」において、作品の情景や心情を読み取る。</li> <li>・「読むこと」において、作者の旅に対する思いをまとめる。</li> <li>・「読むこと」において、孔子の理想とする生き方や人との関わり方を読み取り、整理する。</li> </ul>						
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典作品を読むために必要な基本的な知識を習得し、読解や解釈に取り組むことができる。</li> <li>・作品の成立背景について知識を深めるとともに、内容をおおむね理解することができる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中のもの見方・感じ方・考え方をとらえ、自分なりの意見を持つことができる。</li> <li>・既存の作品の文章構成を参考にして、自分の体験や気持ち・考えを書くことができる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で自分がやるべきことを探し、粘り強く課題に取り組む。</li> <li>・授業から新たな疑問を見つけることができる。</li> </ul>		○		○	○		
評価方法	①		②		③				
	㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検		㊦定期考査 ㊧授業プリント		㊦ワーカー・ポートフォリオ ㊧ルーブリックによる相互評価 ㊨各種課題提出状況 ㊩話し合い活動への参加状況				

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	地理歴史	科目	地理総合	
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「高等学校 新地理総合」帝国書院</li> <li>地図帳「新詳高等地図」帝国書院</li> <li>資料集「新編地理資料2024」東京法令出版</li> </ul>									
学習目標	<p>(1) 地図の基礎からGISの活用方法を習得し、様々な地図から世界の結びつきを考察できる。</p> <p>(2) 世界各地の生活文化を通して、国際理解を深めることができる。地球的課題の解決に向けた国際協力のあり方を考察できる。</p> <p>(3) 災害のメカニズムから対策までを考察できる。地域調査の手法を習得できる。</p>									
単元と学習内容										
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球上の位置と時差</li> <li>地図の役割と種類</li> <li>現代世界の国家と領域</li> <li>グローバル化する世界</li> <li>生活文化の多様性</li> <li>世界の地形と人々の生活</li> <li>世界の気候と人々の生活</li> <li>世界の言語・宗教と人々の生活</li> </ul>	<p>緯度や時差の違いが私たちの生活にどのような影響を与えているか。地図や地図情報システムにはどのような役割や種類があるだろうか。また、私たちの生活にどのように役立っているのだろうか。</p> <p>国家の領域や国境はどのように定まっているのだろうか。また、日本の位置と領域にはどのような特徴があるのだろうか。</p> <p>世界の国々は貿易、交通、通信、観光などの要素によってどのように結びついているのだろうか。</p> <p>人々は地形とどのように関わっているのだろうか。</p> <p>人々の生活は気候要素とどのように関わっているのだろうか。</p> <p>言語や宗教は人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。</p>								
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的背景と人々の生活</li> <li>世界の産業と人々の生活</li> <li>地球的課題と国際協力</li> </ul>	<p>歴史的背景は人々の生活文化にどのような影響を与えてきたか。</p> <p>産業の発展は人々の生活にどのような影響を与えてきたか。</p> <p>現代の地球的課題の背景には何があるだろうか。</p> <p>世界ではどのような地球環境問題が見られ、どんな取組が行われているだろうか。</p> <p>世界の資源やエネルギーの利用にはどのような課題があるだろうか。</p> <p>国や地域によってどのような人口問題があり、どんな対策が行われているだろうか。</p> <p>食料問題を解決するためにはどのような取組が必要だろうか。</p> <p>国や地域によってどんな都市・居住問題があるだろうか。</p>								
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境と防災</li> <li>生活圏の調査と地域の展望</li> </ul>	<p>日本の地形や気候にはどのような特徴があるだろうか。</p> <p>地震や津波はどのような被害をもたらすだろうか。</p> <p>火山はどのような恵みや災害をもたらすだろうか。</p> <p>気象災害にはどのような種類があり、どのような備えが必要だろうか。</p> <p>災害発生時の危機管理体制はどのように整備されているだろうか。</p>								
評価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組について理解できる。</li> <li>地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる事象の意味や意義、特色を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、概念などを活用して多面的、多角的に考察できる。</li> <li>地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりできる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> <li>日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚を深めようとしている。</li> </ul>					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦定期考査</li> <li>⑧副教材問題集解答</li> <li>⑨ノート点検</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦定期考査</li> <li>⑧授業プリント</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦自作問題等のプレゼンテーション</li> <li>⑧各種提出状況</li> <li>⑨討論への参加状況</li> </ul>				

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	地理歴史	科目	歴史総合	
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「歴史総合 近代から現代へ」山川出版社</li> <li>・「歴史総合資料集」山川出版社</li> <li>・「歴史総合用語解説」山川出版社</li> </ul>									
学習目標	(1) 生活や社会の変容について、資料から情報を読み取ったりまとめたりできる。 (2) 生活や社会の変容について、論理的に考察し、問いを表現することができる。 (3) 近現代の歴史の諸事象と現代との関わりを考え、授業から新たな疑問や課題を見つけだすことができる。									
単元と学習内容										
1 学期	近代化と私たち ・結びつく世界 ・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・明治維新と日本の立憲体制 ・帝国主義の展開とアジア ・近代化と現代的な諸課題			18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係 イギリスに始まる産業革命が、世界各地の社会や経済に与えた影響とアジアと欧米の関係の変化 国民国家誕生の経緯と、国民統合の進展が人々に与えた影響 帝国主義政策が国際社会に与えた影響 産業革命に始まる工業化が人々にもたらした課題						
2 学期	国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦 ・戦後の国際秩序と日本の改革 ・国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題			第一次世界大戦開戦までの経緯とその被害 大量生産や大量消費が国民生活に与えた影響 世界恐慌とその後の各国の対応が第二次世界大戦に与えた影響 第二次世界大戦後の国際社会でおこった対立とその影響 冷戦下における日本に期待された役割 近代オリンピックにおける「平等」と「格差」の問題						
3 学期	グローバル化と私たち ・冷戦と世界経済 ・グローバル化する世界 ・現代の課題 ・現代的な諸課題の形成と展望			冷戦が各国経済に与えた影響と地域紛争による課題 市場経済のグローバル化や経済自由化が世界経済に与えた影響 複雑に絡み合う現代の諸課題への対応 持続可能な社会の実現のために解決されなければならない課題						
評価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代における事実に基づく知識を習得し、関係図などの概念的な理解と結びつけることができる。</li> <li>・資料から読み取れることなどを、他者との意見交換をとおして自分の考えに反映できる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な事象のもつ意味や事象間の関係性について、知識や概念、資料を根拠に説明できる。</li> <li>・「因果関係」「視点の転換」「史料の作り手の意図や背景」「比較」などから問いを表現できる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の諸課題と近現代の歴史事象との関連を自分の言葉で説明する。</li> <li>・現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を問題意識をもって考察する。</li> </ul>					○		○	○
評価方法	①			②			③			
	㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検			㊦定期考査 ㊧授業プリント			㊦授業プリント ㊧ルブリックによる評価 ㊨各種提出状況 ㊩討論への参加状況			

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	3	教科	数学	科目	数学 I
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「NEXT 数学 I」数研出版</li> <li>・「CONNECT 数学 I 完成ノート 新課程」数研出版</li> <li>・「チャート式 解法と演習 数学 I+A 新課程」数研出版</li> </ul>								
学習目標	<p>(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連 付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を 養う。</p>								
単元と内容									
1 学 期	第1章 数と式 式の計算 実数 1次不等式  第2章 集合と命題  第3章 2次関数 2次関数とグラフ 2次関数の値の変化 2次方程式と2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多項式の整理、式の展開、公式やたすき掛けを利用した因数分 解を理解する。</li> <li>・実数の分類、絶対値の性質、根号を含む四則演算、分母の有理化 ができる。</li> <li>・解の意味を理解して1次不等式、連立不等式を解く。絶対値の 定義や性質をもとに、絶対値を含む方程式・不等式を解く。</li> <li>・集合の記号や性質の確認。命題とその逆・裏・対偶などの真偽 の関係について理解する。</li> <li>・関数についての理解を深める。2次関数を式変形(平方完成) してグラフをかく。</li> <li>・2次関数のグラフを利用して、最大値・最小値を求める。</li> <li>・2次関数のグラフとx軸の位置関係を利用し、2次不等式を解 く。</li> </ul>							
2 学 期	第4章 図形と計量 三角比 三角形への応用 第5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角比についての理解を深め、三角比の相互関係を理解する。</li> <li>・正弦定理、余弦定理、面積の公式を利用して、辺や角、面積を求 める。空間図形では、空間図形の中の平面図形に着目する。</li> <li>・データを整理、比較する方法を理解する。</li> <li>・データの散らばりを計算で求め、散らばり度合いを判断する。</li> <li>・相関係数の意味を理解し、それを利用してデータの相関を捉え て説明できるようにする。</li> </ul>							
3 学 期	(この学期は授業計画が完了したため、空白に設定されています)								
評 価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	・各単元における基本的な概念や原理・法則を理 解している。	○	○	○	○	(この欄は評価結果の集計やコメントの記入欄として活用されます)		
②	思考・判断・ 表現	・目的に応じて適切に式を変形することができる。 ・事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラ フを相互に関連付けて考察することができる。	○	○	○	○			
③	主体的に学習 に取り組む態 度	・問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善 しようとしている。 ・問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に 基づき判断しようとしている。		○		○			
評 価 方 法	①		②		③				
	㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト		㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況		㊦ 各種提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況				

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	1	教科	数学	科目	数学Ⅱ
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「NEXT 数学Ⅱ」数研出版</li> <li>「CONNECT 数学Ⅱ 完成ノート 新課程」数研出版</li> <li>「チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B 新課程」数研出版</li> </ul>								
学習目標	<p>(1) 数学Ⅰの内容をさらに発展・拡充させるとともに、数学Ⅲへの学習の系統性に配慮しながら、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、より高度な能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p>								
単元と内容									
1学期	/								
2学期	/								
3学期	第1章 式と証明 式と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>3次の乗法公式および因数分解の公式を用いて、展開や因数分解ができる。</li> <li>二項定理を学び、式の展開についての理解を深める。</li> <li>整式の除法を学び、商と余りを求める。</li> <li>分数式の計算ができる。</li> <li>恒等式の内容を理解し応用できる。</li> <li>等式・不等式の証明法を理解し、証明できる。</li> </ul>							
	等式・不等式の証明								
	第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解	<ul style="list-style-type: none"> <li>複素数を導入し、実数の拡張になっていることを理解する。また四則演算ができることを理解する。</li> <li>2次方程式が、複素数の範囲では常に解を持つこと、また解の種類は判別式の符号で判別できることを理解する。</li> <li>2次方程式の解と係数の関係を理解し、応用できる。また解の公式を用いて2次式の因数分解ができる。</li> <li>剰余の定理・因数定理を理解し、簡単な高次方程式を解くことができる。</li> </ul>							
高次方程式									
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。	/	/	/	/	/	/	○
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて適切に式を変形することができる。</li> <li>事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。</li> </ul>	/	/	/	/	/	/	○
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。</li> <li>問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</li> </ul>	/	/	/	/	/	/	○
評価方法	①		②		③				
	㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト	㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況	㊦ 各種課題提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況						



令和6年(2024年)度 年間授業計画表									
学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	数学	科目	数学A
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「NEXT 数学A」数研出版</li> <li>「CONNECT 数学A 完成ノート 新課程」数研出版</li> <li>「チャート式 解法と演習 数学I+A 新課程」数研出版</li> </ul>								
学習目標	<p>(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p>								
単元と内容									
1 学期	第1章 場合の数と確率 場合の数	<ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数を求めるときの基本として和の法則、積の法則を適用し、その際、樹形図の有用性を理解する。</li> <li>順列・組合せの意味を知り、その総数を求める。また、この考え方をいろいろな場合の数を求める際に、適切に用いることができる。</li> <li>確率の定義を理解し、計算をすることができる。</li> <li>加法定理などの確率、余事象の確率を理解し、応用できる。</li> <li>独立試行・反復試行の概念を理解し、応用できる。</li> <li>条件付き確率の意味を理解し、応用できる。</li> </ul>							
	確率								
2 学期	第2章 図形と性質 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の五心を理解する。</li> <li>円(外接円・内接円)と三角形の関係を理解する。</li> <li>チェバ・メネラウスの定理を理解する。</li> <li>円周角の定理を理解し、図形の考え方に応用できる。</li> <li>円の接線の性質を利用し、接弦定理を理解する。</li> <li>2つの円の位置関係と共通接線について理解する。</li> <li>空間における直線・平面の位置関係について理解する。</li> <li>多面体の性質を理解する。</li> </ul>							
	空間図形								
3 学期	第3章 数学と人間の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>約数と倍数、素数、素因数分解、最大公約数と最小公倍数、互いに素などの基本を身につける。</li> <li>様々な場面で活用できる自然数の倍数の判別法を理解する。</li> <li>整数の除法を理解した上で、余りに着目した整数の分類の考え方を理解する。</li> <li>互除法の考え方を理解し、二元一次不定方程式の解法に応用する。</li> <li>十進法の考え方を確認することにより、数の表記方法について理解する。特に小数やn進法を通じて、位取りの理解を深める。</li> <li>座標の考え方を理解し、平面・空間の点の位置を表すことができる。</li> </ul>							
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準]	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	目的に応じて適切に式を変形することができる。 事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。		○		○	○		
評価方法	①	②	③						
	㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト	㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況	㊦ 各種課題提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況						

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	理科	科目	化学基礎
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「化学基礎」実教出版</li> <li>・「インプレス化学基礎ノート」浜島書店</li> </ul>								
学習目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な基本的な技能を身につけて適切に使用することができる。 (2) 見通しをもって観察、実験などを行い、結果を分析して解釈し、表現することができる。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、課題を見つけ、科学的に探究することができる。								
単元と学習内容									
1学期	序章 物質と化学 1章 物質の構成 1節 物質の探究  2節 物質の構成粒子  2章 物質と化学結合 1節 イオン結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会を支える物質の利用と化学が果たしている役割</li> <li>・混合物の分離方法と純物質の成り立ち、元素の確認方法</li> <li>・粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係</li> <li>・原子の構造及び陽イオン、陰イオンの生成の仕組み</li> <li>・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係</li> <li>・イオン結合とイオン結晶の組成式及び性質と代表的な物質</li> </ul>							
2学期	2章 物質と化学結合 2節 共有結合と分子間力  3節 金属結合 4節 化学結合と物質 3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有結合と分子の分子式や構造式及び分子からなる物質の性質</li> <li>・共有結合からなる代表的な物質の特徴</li> <li>・金属元素の結合と性質と種々の金属や合金について</li> <li>・化学結合によってできた結晶の性質や構成粒子について</li> <li>・相対質量を用いた原子や分子の質量の表し方</li> <li>・物質と粒子数、質量、気体の体積との関係</li> <li>・体積モル濃度を用いた溶液の濃度の表し方</li> <li>・量的関係に注目した化学反応式の書き方</li> </ul>							
3学期	3章 物質の変化 2節 酸と塩基  3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸・塩基の定義と価数及び酸・塩基の強弱と電離度の関係</li> <li>・水素イオン濃度と pH、酸性・塩基性の大小の関係</li> <li>・中和反応と塩の生成及び中和反応の量的関係の計算</li> <li>・酸素、水素、電子の授受による酸化反応・還元反応</li> <li>・酸化数の求め方、酸化数の増減と酸化・還元の関係</li> <li>・酸化剤・還元剤の定義、イオン化傾向と反応性の関係</li> <li>・酸化還元反応の利用とその仕組み</li> </ul>							
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質とその変化について理解するとともに、習得した知識を用いて考えることができる。</li> <li>・科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技術を適切に用いることができる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な物質についての観察や実験を行い、結果を分析して表現するなど、科学的に探究する活動ができる。</li> <li>・物質とその変化に関する課題に対して、習得した知識を基に考察し、自分の考えを表現することができる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的な探究活動ができる。</li> </ul>		○		○	○		
評価方法	①		②			③			
	㊦定期考査 ㊦小テスト ㊦提出物	㊦定期考査 ㊦授業プリント ㊦実験レポート	㊦授業プリント ㊦実験レポート ㊦各種課題提出状況						

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通	単位	3	教科	保健体育	科目	体育	
学習教材	・教科書 「現代高等保健体育」(大修館書店) ・「体育簿」(富山県体育保健学会) ・資料集 「図説現代高等保健」(大修館書店)									
学習目標	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、それらの解決に向けて思考し判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えるコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して一人一人の違いを大切にしようとするなどの調和のとれた豊かな人格の形成を図るとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたり継続して運動に親しむ態度を養うことができる。									
単元と学習内容										
1 学期	体づくり運動  以下、同じ印から選択(☆○△□ ■) ☆陸上競技・ 短距離走、ハードル、リレー ☆球技・バレーボール  体育理論	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方などを理解するとともに、自己の体力に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てる。 陸上競技の短距離走では滑らかに走ることや高いスピードを維持して走る能力、ハードル走ではスピードを維持してハードルを低くリズムカルに越す能力、リレーでは中間走の高いスピードを維持して速く走る能力を身に付ける。 バレーボールは状況に応じたボール操作やチームの連携した動きを習得するとともに、攻防を展開して、ゲームを行う。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通してスポーツに関する能力を身に付ける。								
2 学期	体づくり運動 陸上競技・長距離走  ○球技・サッカー  ○球技・バスケットボール  △器械運動・マット運動、  △ダンス・創作ダンス	1学期と同じ 記録の向上や競争及び課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに、ペースの変化に対応して走る能力を身に付ける。 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどのチームの動きによって攻防を展開して、ゲームを行う。 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作と、チームで連携したプレイを使って攻防を展開し、ゲームを行う。 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行い、それらを構成し演技する。 感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに表現力を身に付ける。								
3 学期	□球技・バスケットボール □器械運動・マット運動 ■球技・卓球 ■球技・バドミントン 体育理論	バスケットボール、器械運動は2学期と同じ。 (卓球とバドミントン共通) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク・サービスなどの安定したシャトル操作・ボール操作やダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開する。 体育理論は1学期と同じ。								
評 価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	・技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などについて理解している。 ・基本的な技能を身に付けている。					○		○	○
②	思考・判断・表現	・運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに考えたことを他者に伝えている。					○		○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	・各種運動に積極的に取り組もうとしている。 ・演技などの話し合いに参加しようとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	㊦学習カード ①観察 ㊧記録・実技テスト		㊦学習カード ①観察			㊦学習カード ①観察				

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通	単位	1	教科	保健体育	科目	保健
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「現代高等保健体育」(大修館書店)</li> <li>・資料集「図説現代高等保健」(大修館書店)</li> </ul>								
学習目標	<p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、健康に関する技能を身に付けることができる。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うことができる。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。</p>								
単元と学習内容									
1 学期	<p>現代社会と健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の考え方</li> <li>・生活習慣病などの予防と回復</li> </ul>	<p>現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、以下に示した項目のそれぞれに対応する知識や考え方、技能などを身に付ける。また健康や安全に関する原則や概念に着目して課題解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。</p> <p>「健康の考え方と成り立ち」「私たちの健康のすがた」                      「生活習慣病の予防と回復」「がんの原因と予防」「がんの治療と回復」                      「運動と健康」「食事と健康」「休養・睡眠と健康」</p>							
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</li> <li>・精神疾患の予防と回復</li> <li>・現代の感染症とその予防</li> <li>・健康に関する意思決定・行動選択</li> </ul>	<p>「喫煙と健康」「飲酒と健康」「薬物乱用と健康」</p> <p>「精神疾患の特徴」「精神疾患の予防」「精神疾患からの回復」「現代の感染症」「感染症の予防」「性感染症・エイズとその予防」                      「健康に関する意思決定・行動選択」「健康に関する環境づくり」</p>							
3 学期	<p>安全な社会生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な社会づくり</li> <li>・応急手当</li> </ul>	<p>安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、以下に示した項目のそれぞれに対応する知識や考え方、技能などを身に付ける。また健康や安全に関する原則や概念に着目して課題解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。</p> <p>「事故の現状と発生要因」「安全な社会の形成」「交通における安全」                      「応急手当の意義とその基本」「日常的な応急手当」「心肺蘇生法」</p>							
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の基準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。		○		○	○		
評価方法	①		②			③			
	㊦定期考査 ㊧ワークシート ㊨観察 ㊩実習での技能習得状況		㊦定期考査 ㊧ワークシート ㊨観察			㊦ノート点検 ㊧授業プリントなどの提出状況 ㊨観察 ㊩実習などへの参加状況			

令和6年(2024年)度 年間授業計画表									
学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	芸術	科目	音楽I
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「音楽I Tutti」教育出版社</li> <li>・「Music Note 基礎から学ぶ高校音楽」啓隆社、「世界の歌声」教育芸術社</li> </ul>								
学習目標	(1) 音楽と歴史的・文化的背景の関わりおよび音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を身に付けることができる。 (2) 音楽を形づくっている要素とその働きについて考え、イメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさについて味わって聴くことができる。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。								
単元と内容									
1学期	正しい発声法を身に付けよう  ボディー・パーカッションに挑戦しよう  歌曲に親しもう  楽器による表現上の効果を感じ取ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢や体の使い方、発声の仕組みについて理解を深め、歌唱に生かすことができる曲想と歌詞の内容がどのようにかかわっているかを感じ取る 校歌/Ave Maria/Lemon/翼をください</li> <li>・ボディー・パーカッションを、音色を工夫しながら演奏するイメージをもってアンサンブルに参加する ツルフェージュ/Plymouth Rock/Clap, tap with Cups!</li> <li>・曲想と歌詞の内容や楽曲の背景がどのようにかかわっているかを感じ取る歌と伴奏の役割を理解して独唱できる この道/花/野ばら/Caro mio ben</li> <li>・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解する楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取る 動物の謝肉祭/交響曲第9番/ピリカ第23番ほか</li> </ul>							
2学期	表現を工夫して合唱をしよう  和楽器に親しみ、音階を選んで旋律をつくろう  ポピュラー音楽に親しもう  能や謡に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートの役割やハーモニーを意識して合唱の喜びを味わう楽曲の特徴を理解し、曲にふさわしい表現方法を考える 故郷/言わない/COSMOS</li> <li>・和楽器の音色や奏法の特徴を理解して演奏する音階の雰囲気を感じ取り、イメージにあった旋律を創作することができる日本の伝統音楽の特徴と表現上の効果を感じ取り、批評したり感想を述べたりする 太鼓/篠笛/三味線/箏から適宜選択</li> <li>・ジャズやロックを形づくっている要素及び奏法について理解する</li> <li>・主体的、積極的に演奏し、各パートの役割やハーモニーを意識してアンサンブルの喜びを味わう 枯葉/Rock History</li> <li>・謡の発声や歌唱法について学習し、表現を工夫して謡う能の特徴や文化的・歴史的背景を理解し、よさを味わう</li> </ul>							
3学期	ヴァイオリンに挑戦しよう  ミュージカルナンバーを歌おう  世界の諸民族の音楽に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァイオリンの歴史、楽器の構造と奏法について理解し、弦楽器の美しい音色を味わう</li> <li>・ヴァイオリンの構造と奏法の特徴を理解し、楽曲演奏に生かすことができる。キラキラ星変奏曲</li> <li>・曲想と歌詞の内容や楽曲背景とのかかわりを感じ取り、イメージをもち、楽曲にあった表現を工夫する Memory/美女と野獣</li> <li>・国や地域の音楽の特徴、曲想と音楽を形づくっている要素とのかかわり、文化的・歴史的背景を理解して鑑賞する音楽の多様性について理解を深める 京畿道アラン/美しいエンメル/世界の諸民族の音楽</li> </ul>							
評価									
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって鑑賞したりしている。</li> </ul>		○		○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	○		○		○		
評価方法	①		②		③				
	㊦実技試験 ㊦レポート、ノート ㊦学習の取り組み状況(観察、聴取)	㊦実技試験、発表 ㊦作品提出 ㊦学習の取り組み状況(観察、聴取)	㊦実技試験 ㊦レポート、ノート ㊦学習の取り組み状況(観察、聴取)						

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	芸術	科目	美術 I	
学習教材	教科書「高校生の美術1」日本文教出版									
学習目標	<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。</p> <p>(2) 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していくことができる。</p>									
単元と内容										
1 学期	「鉛筆一本で」 「身近なものを描く」 「墨表現の可能性」  「きつときとの魚」	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆描写の基礎</li> <li>鉛筆デッサン(葉、煮干しなど)</li> <li>水墨画の技法演習</li> <li>水墨画作品の鑑賞と模写</li> <li>水墨画作品制作</li> </ul>								
2 学期	「好きな色いろいろ」 「デザインの基礎」 「平和になるためのポスター」	<ul style="list-style-type: none"> <li>三原色、トーンの理解と混色</li> <li>色の効果、カラーコーディネート</li> <li>ポスターの鑑賞</li> <li>現状や課題、解決方法の把握</li> <li>タブレットを使ったポスター制作</li> </ul>								
3 学期	「油絵とは?日本画とは?」 「立体的に描く」 「季節のイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>油絵と日本画の鑑賞と画材について</li> <li>三点透視図法・陰影</li> <li>油絵作品の制作</li> <li>友達の作品鑑賞</li> </ul>								
評価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕						評価のフィードバック		
								1期末	2期末	学年末
①	知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>色彩や構図や配色など造形の要素や、それらを基に全体のイメージや作風、様式などでとらえることを理解している。</li> <li>意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。</li> <li>表現方法を創意工夫し、自分で決めた主題を創造的に表している。</li> </ul>						○	○	○
②	思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵画表現では、感じ取ったことや考えたこと等から主題を生成し、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</li> <li>絵画作品の鑑賞では、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫等について考え、見方や感じ方を深めている。</li> <li>デザイン表現では、目的や条件、美しさなどを考えて主題を生成し、機能や効果等について考え、創造的な表現の構想を練っている。</li> <li>デザイン作品の鑑賞では、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫等について考え、見方や感じ方を深めている。</li> </ul>						○	○	○
③	主体的に 学習に 取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵画表現や、作品や美術文化の鑑賞の創造活動に、主体的に、試行錯誤や工夫を繰り返して、時間の限り粘り強く取り組もうとしている。</li> </ul>						○	○	○
評価 方法	①		②			③				
	⑦観察 ⑧ワークシート ⑨試作品 ⑩作品 ⑪作品コメント用紙 ⑫振り返り用紙	⑦観察 ⑧ワークシート ⑨試作品 ⑩作品 ⑪作品コメント用紙 ⑫振り返り用紙	⑦観察 ⑧ワークシート ⑨試作品 ⑩作品 ⑪作品コメント用紙 ⑫振り返り用紙							

令和6年(2024年)度 年間授業計画表										
学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	芸術	科目	書道 I	
学習教材		・教科書「書 I」光村図書								
学習目標		(1) 書の表現方法や形式、多様性について、書の創造的活動を通して幅広く理解し、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づいて効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けることができる。 (2) 書の良さを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。								
単元と内容										
1 学期	書へのいざない			<ul style="list-style-type: none"> <li>・書写から書道へ</li> <li>・用具、用材、表現方法</li> </ul>						
	漢字の書の学習			<ul style="list-style-type: none"> <li>・書体の移り変わり</li> <li>・楷書の古典に学ぼう</li> <li>・うちわ制作・鑑賞</li> </ul>						
	漢字の書の学習			<ul style="list-style-type: none"> <li>・書写と芸術科書道の違い</li> <li>・筆、墨、紙、硯の種類</li> <li>・基本的な書道用語</li> <li>・漢字の五書体の変遷、仮名の誕生</li> <li>・楷書の特徴と古典臨書</li> <li>・楷書の用筆法、運筆法、字形の取り方</li> <li>・古典の特徴を深め、うちわ制作、発表、鑑賞</li> </ul>						
2 学期	篆書に親しもう			<ul style="list-style-type: none"> <li>・篆書の特徴、用筆法、運筆法、字形の取り方</li> <li>・篆刻の意義、制作方法、氏名印の制作と押印</li> </ul>						
	漢字の書の学習			<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴と古典臨書、用筆法、運筆法、字形の取り方</li> <li>・隷書の特徴、古典臨書、用筆法、運筆法、字形の取り方</li> </ul>						
	仮名の書の学習			<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の成立と変遷、種類</li> <li>・仮名の書独特の筆使いと基本用筆</li> <li>・仮名の単体や連綿、全体構成</li> <li>・仮名の古筆臨書</li> <li>・仮名独特の流動美や紙面構成、表現</li> <li>・創作、鑑賞</li> </ul>						
3 学期	漢字仮名交じりの書の学習			<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や仮名の古典を生かした表現の工夫</li> <li>・文字と余白の関係、全体構成を考えた表現、著作権</li> </ul>						
	創作しよう			<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作、発表、鑑賞</li> </ul>						
評 価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	書の表現方法や形式、多様性を書の創造的活動を通して幅広く理解し、書の伝統に基づいて効果的な技術を身に付けている。					○		○	○
②	思考・判断・表現	書の良さや美しさを味わうとともに、意図に基づいた構想や表現の効果を理解し、書の伝統と文化の意味を考えて書の活動に生かしている。					○		○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化に親しみ、主体的に書の幅広い活動に取り組もうとしている。					○		○	○
評価方法	①			②			③			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦提出作品</li> <li>㊦確認プリント(小テスト)</li> <li>㊦臨書プリント</li> <li>㊦観察</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦創作・鑑賞プリント</li> <li>㊦提出(創作)作品</li> <li>㊦振り返りプリント</li> <li>㊦観察</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦提出課題</li> <li>㊦関心・意欲・態度</li> <li>㊦添削数、配布手本の記入</li> <li>㊦観察</li> </ul>			

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	4	教科	外国語	科目	英語コミュニケーションI	
学習教材	・教科書「PANORAMA English Communication I」大修館 「予習・復習ノート」「ワークブック」大修館									
学習目標	(1) 文章や会話などを聞いたり読んだりして、情報や考えなどの要点を捉えることができる。 (2) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを論理性に注意して、話し合ったり伝えたりすることができる。 (3) 語句や文の構造などに注意しながら、60語程度の英文を書くことができる。									
単元と学習内容										
1 学期	Lesson 1 Words to Live By	<ul style="list-style-type: none"> <li>ことばには人を勇気づける力があることについて理解を深め、生きる上での言葉の大切さについて考える。</li> </ul>								
	Lesson 2 My English Experience	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語が役立つ場面について理解を深め、英語を学ぶ意義について考える。</li> </ul>								
	Lesson 3 Our Feline Friends	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネコと人間の関わりやネコの生態について理解を深め、ペットとしての動物について考える。</li> </ul>								
	Lesson 4 Work in the Future	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の変化と職業の関係について理解を深め、将来の職業選択について考える。</li> </ul>								
2 学期	Lesson 5 My Favorite Food: Rice	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本や海外でのお米の文化について理解を深め、効果的なプレゼンテーションの仕方について考える。</li> </ul>								
	Lesson 6 A Long Way Home	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の運命的な経験について理解を深め、人の心の動きや行動について考える。</li> </ul>								
	Lesson 7 Can You Read Faces?	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔の表情の持つ意味について理解を深め、人と人とのコミュニケーションの在り方について考える。</li> </ul>								
	Lesson 8 Make People Shine: Chore-director, MIKIKO	<ul style="list-style-type: none"> <li>スペシャリストの仕事に対する考え方について理解を深め、将来の生き方について考える。</li> </ul>								
3 学期	Lesson 9 Our Desire to Fly	<ul style="list-style-type: none"> <li>人類と飛行の歴史について理解を深め、人間の努力と文明の発達について考える。</li> </ul>								
	Lesson 10 Loving the Earth	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保護への人間の取り組みについて理解を深め、自分たちに今何ができるかについて考える。</li> </ul>								
評 価										
評価の観点		到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕				評価のフィードバック				
						1期中	1期末	2期中	2期末	学年末
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の構造や内容を理解することができる。</li> <li>情報や考え、気持ちなどを適切に伝えることができる技能を身に付けている。</li> </ul>				○	○	○	○	○
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の概要や要点を捉えることができる。</li> <li>基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して書いたり、話したりして伝えることができる。</li> </ul>				○	○	○	○	○
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の概要や要点を捉えようとしている。</li> <li>クラスメイトにわかるように、題材についての情報や考え、気持ちなどを伝えようとしている。</li> </ul>					○		○	○
評価方法	①		②			③				
	㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト ㊨ 提出物		㊦ 定期考査 ㊧ 授業プリント ㊨ パフォーマンステスト			㊦ 授業での発表 ㊧ 相互評価 ㊨ 提出物 ㊩ ペアワークなどの参加状況				



令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	外国語	科目	論理・表現 I
学習教材	・教科書「APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I」開隆堂 「Workbook」開隆堂								
学習目標	日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、 (1) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。 (2) 聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 (3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。								
単元と学習内容									
1 学期	Lesson 1 My Hero Lesson 2 Weather Forecast for Tomorrow Lesson 3 Tips on Visiting a Japanese Temple Lesson 4 The Key to Learn <i>Kanji</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在と過去を表す文の理解を基に、あこがれの人について、わかりやすく的確に紹介する。</li> <li>未来を表す文の理解を基に、外国からきたお客さんと過ごす週末の予定を伝える。</li> <li>助動詞を使った文の理解を基に、富士登山の際の注意事項について発表する。</li> <li>完了形を使った文の理解を基に、これまで経験したことについて友人に尋ねたり、紹介したりする。</li> </ul>							
2 学期	Lesson 5 Home-Made Bread Lesson 6 Guinness World Records Lesson 7 Japanese Bentos Are Cool! Lesson 8 Ready for Disasters Lesson 9 Useful Ads on the Internet Lesson 10 Who's the Girl Walking with You?	<ul style="list-style-type: none"> <li>受動態を使った文の理解を基に、これまで経験したことについて友人に尋ねたり、紹介したりする。</li> <li>比較級、最上級を使った文の理解を基に、好きな日本の食べ物について紹介する。</li> <li>同等比較、倍数比較を使った文の理解を基に、食品ロスを減らす方法について、グラフの情報と合わせて発表する。</li> <li>動名詞、to不定詞①(名詞的用法)を使った文の理解を基に、災害への備えや発生時に必要なことについて紹介する。</li> <li>to不定詞の形容詞的用法と副詞的用法を使った文の理解を基に、留学先に持っていきたいおみやげについて紹介する。</li> <li>分詞を使った文の理解を基に、身の回りで起こったことについて、順序立てて説明する。</li> </ul>							
3 学期	Lesson 11 Going on a Factory Tour! Lesson 12 A Sightseeing Spot to recommend Lesson 13 If I Were Good at Cooking Lesson 14 The Best Place for the Holiday	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係代名詞を使った文の理解を基に、オリジナル製品のアイデアについて発表する。</li> <li>関係副詞を使った文の理解を基に、おすすめの観光地について、その魅力が伝わるように説明する。</li> <li>仮定法を使った文の理解を基に、悩みや後悔について、友だちからもらった助言を発表する。</li> <li>接続詞を使った文の理解を基に、春休みにいきたい場所について発表する。</li> </ul>							
評 価									
評価の観点		到達度目標「[B] (おおむね満足できる) の規準」	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の構造や文法事項を理解することができる。</li> <li>情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝えることができる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
②	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。</li> </ul>	○	○	○	○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話す内容や質問に対して、適切な相槌をうちながら、きちんと耳を傾けている。</li> <li>自分の考えを積極的に伝えようとしている。</li> </ul>		○		○	○		
評価方法	①		②			③			
	㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト ㊨ 提出物	㊦ 定期考査 ㊧ 授業プリント ㊨ パフォーマンステスト	㊦ 授業での発表 ㊧ 相互評価 ㊨ 提出物 ㊩ ペアワークなどの参加状況						

令和6年(2024年)度 年間授業計画表

学年	1	科・系	普通科	単位	2	教科	家庭	科目	家庭基礎
学習教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「図説家庭基礎」実教出版</li> <li>「図説家庭基礎 学習ノート」実教出版</li> </ul>								
学習目標	<p>(1) 生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。【知識・技能】</p> <p>(2) 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養える。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養える。【主体的に学習に取り組む態度】</p>								
単元と内容									
1 学期	第1章 自分らしい生き方と家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生における青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解し、共に家庭を築くことの意義や重要性を考える。</li> </ul>							
	第2章 子どもとかかわる	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児期の心身の発達、基本的な生活習慣の形成や健康管理と安全への配慮などについて理解する。</li> <li>子どもを取り巻く社会環境の課題や子育て支援の必要性について理解する。</li> </ul>							
	第3章 高齢者とかかわる	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な高齢者からの聞き取り活動や事例を見て課題を考える。社会全体で高齢者を支える仕組みについて、具体的な事例を通して考察する。</li> </ul>							
	第4章 社会とかかわる ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>共に支え合って生きる社会の考え方について理解する。</li> <li>自己の家庭生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する。</li> </ul>							
2 学期	第5章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の食生活を振り返り、食べることと健康の関わり、食生活の変化と問題点について考える。</li> <li>栄養的特質により分類されることを理解し、栄養素のはたらきを考える。</li> </ul>							
	第6章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージや目的に応じた被服の機能と保健衛生上、生活活動上、社会生活上の機能を生かした適切な着装について理解する。</li> </ul>							
3 学期	第7章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族が安全で快適かつ健康な生活を営む場としての住居の機能や豊かな住まい方、環境に配慮した住まい方を考える。</li> </ul>							
	第8章 経済的に自立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や不測の事態に備えた計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度など関連付けて考える。</li> </ul>							
	第9章 消費行動を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>未成年と成年の法律上の責任の違いや契約の重要性、消費者保護、消費者被害の未然防止を理解する。</li> </ul>							
評価									
評価の観点		到達度目標【「B」(おおむね満足できる)の規準】	評価のフィードバック						
			1期中	1期末	2期中	2期末	学年末		
①	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。		○		○	○		
②	思考・判断・表現	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。		○		○	○		
③	主体的に学習に取り組む態度	課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		○		○	○		
評価方法	①		②			③			
	⑦定期考査		⑦定期考査			⑦振り返りシート			
	①ホームプロジェクト		①ホームプロジェクト			①ホームプロジェクト			
	⑦学習ノート点検		⑦ペアワーク			⑦ループリックによる相互評価			
⑤実習		⑤学習ノート点検			⑤学習ノート点検				